

読書活動推進NEWS

読書活動支援者育成事業 南会津地区研修会

10月18日(火)に、ただみ・モノとくらしのミュージアムで、読書活動支援者育成事業南会津地区研修会を開催しました。例年、読み聞かせボランティアの方や家庭教育支援に携わる方など、図書に関わるみなさんが集まって、「子供たちを本に親しませるために」などのテーマで体験や情報交換をしています。



来館された方々も語りの魅力に引き込まれて・・・

今回は、まず、只見町昔ばなしの会のみなさんによる「昔語り」を聞きました。



【「小僧むかし」菅家ツヤさん】



【「へそから羽根の生えたむかし」菅家のり子さん】



【「かっぱ膏薬」黒田晶子さん】



【「蛙の恩返し」五十嵐アキ子さん】



【「熊と狐」生天目淳子さん】



【「妖怪小豆洗い」三瓶明子さん】



実演の合間に、昔ばなしの会代表の渡部悦子さんから、語り継がれてきた民話の意義について次のようなお話がありました。

「昔語りには、心の中で思い浮かべながら聞くよさがあります。子供たちがそれぞれに、場面や登場人物の様子を思い浮かべていく中で、想像力が豊かになっていくんですね。」

本の読み聞かせにもつながる「心を豊かにするお話の効果」をあらためて感じる事ができました。

～参加者の声 「昔語り」～

- 語りの口調が心地よかったです。
- 同じ話でも、語り方によって伝わり方がちがうということを実感しました。
- 「読む」のではなく「語って聞かせる」ことが大事だと思いました。
- 小さいころに祖父から昔話を聞かせてもらっていたのを思い出しました。
- 昔話を後の世代に伝えようと思う気持ちが伝わってきました。



続いて、「本好きの子を育てるには」をテーマに情報交換をしました。



グループに分かれて、「子供たちへ読み聞かせの仕方」や「本の選び方」などについて、持ち寄った本を手にしながら具体的に話し合いました。予定の40分間を過ぎてても話が尽きないほど、充実した意見交換になりました。

～参加者の声 「情報交換」～

- 「次にどんな本を読もうかな」と考える機会になりました。
- 読み手がいろいろな本にふれてみる事が大切だと感じました。
- 持参された本から新しい視点を見つけることができました。
- 具体的なよいアイデアをたくさん聞くことができました。

～研修会全体の感想～

- ・ 今の子を本好きにさせるのは難しいですが、本やお話にふれる機会を大切にしたいと思います。
- ・ 情報収集できるこの研修会はたいへん役に立っています。ありがとうございます。
- ・ 興味を持つことの大切さを確認できました。難しく考えず、一歩前に踏み出したいと思います。
- ・ また研修会があれば、ぜひ参加したいと思います。
- ・ 同じように悩んでいる人たちとコミュニケーションすることができてよかったです。
- ・ 「どうしたら興味を持つのか」「どう読むとよいのか」などの勉強会もぜひお願いします。

